

スピアーズ通信

SPEAR

1

2018



SPEARARS AWARDS 2017-18 受賞者発表

受賞者スペシャルインタビュー

SPEARS AWARDS 2017-18

各賞紹介

■Most Effective Tackle of The Year

公式戦出場時間に対して最も多くのタックルを成功させた選手。

■Most Effective 2nd 3rd Man of The Year

ボールを持った人に対して、2番手、3番手のサポートを最も行った選手。

■Most 2nd Effort of The Year

タックルの後、最も多く素早く次のプレーを行った選手。

■Collision King Attack of The Year

アタックで最もインパクトを残し、チームを前進させた選手。

■Collision King Defense of The Year

ディフェンスで最もインパクトを残し、相手チームを激しいタックルで後退させた選手。

■Rookie of The Year

新規入団した選手の中で最も活躍した選手。

■Most Valuable Player

いわゆる今シーズンの MVP。勝利への貢献度が高かった選手に贈られる名誉ある賞。

■Players Player of The Year

選手が選ぶ MVP。常にハードワークを続け試合で活躍し続けた選手。

■Kubota Man 2017-18

選手が1年間毎週行う投票の通算で選ぶ賞。グラウンド内外でチームファーストで行動し続けた、最も受賞が難しいとされる賞。

■ Most Effective Tackle of The Year

公式戦出場時間に対して最も多くのタックルを成功させた選手。



FL
田村 玲一
REIICHI TAMURA

5分間に1回のタックル成功。トップリーグ全体のスタッツでも怪我で離脱する前の9節まではトップの回数だった。

■ Most 2nd Effort of The Year

タックルの後、最も多く素早く次のプレーを行った選手。



FL
田村 玲一
REIICHI TAMURA

タックル数も多ければ、その後素早くラックへプレッシャーをかける回数も多く、何度もピンチを防いだ。

■ Most Effective 2nd 3rd Man of The Year

ボールを持った人に対して、2番手、3番手のサポートを最も行った選手。



FL
末永 健雄
TAKEO SUENAGA

新人ながらシーズン公式戦全試合出場を果たし、FW 離れした瞬発力で好サポートを連発した。

■ Collision King Attack of The Year

アタックで最もインパクトを残し、チームを前進させた選手。



CTB
シオネ テアウパ
TEAUPA SIONE

ボールを持って突進した回数は 165 回、その中で相手選手のタックルを外したのが 63 回、ラインブレイクし大きく前進した回数が 13 回、トライ数も 7 回とチームで断トツトップ。

■ Collision King Defense of The Year

ディフェンスで最もインパクトを残し、相手チームを激しいタックルで後退させた選手。



LO
キム ホボム
HOBUM KIM

満場一致の 2 年連続での受賞。何度もチームの壁となり相手の脅威となった。

■ Rookie of The Year

新規入団した選手の中で最も活躍した選手。



CTB
シオネ テアウパ
TEAUPA SIONE

今シーズンは大学から入団した 5 選手全員がデビュー。中でもテアウパ選手は急成長し日本代表としてもデビュー。この 2 月からはスーパーラグビー参戦も決まった。

■Most Valuable Player

いわゆる今シーズンの MVP。勝利への貢献度が高かった選手に贈られる名誉ある賞。



LO
キム ホボム
HOBUM KIM

シーズン公式戦全試合出場。全試合でのハードワークを高いレベルで続けた。フラン HC のみならず他チームの HC も大絶賛。

■Players Player of The Year

選手が選ぶ MVP。常にハードワークを続け試合で活躍し続けた選手。



SO/CTB
立川 理道
HARUMICHI TATEKAWA

もはや説明不要。ありとあらゆる場面で結果を出し続け期待に応えた。

■Kubota Man 2017-18

選手が1年間毎週行う投票の通算で選ぶ賞。グラウンド内外でチームファーストで行動し続けた、最も受賞が難しいとされる賞。



LO
今野 達朗
TATSURO KONNO

怪我でのリハビリが長い中、相手チームの分析やコーチングスキル習得までチームのために努力を惜しまなかった姿勢が選手達に伝わった。

SPECIAL INTERVIEW



*Most Effective Tackle
of The Year*

*Most 2nd Effort
of The Year*

FL
田村 玲一
REIICHI TAMURA

— **【Most Effective Tackle of The Year】** ・ **【Most 2nd effort of The Year】**とタックル周りの賞で二冠おめでとうございます。感想をお願いします。

ありがとうございます。でも、今シーズン後半節で怪我して試合に出られなかったですし、ラピースや健雄のパフォーマンスが良かったので今年には賞がないなと思っていたのでびっくりしました。

今シーズンの取り組みがコーチ陣に評価してもらえたことは嬉しいことですが、それと同時に責任感というか来シーズンはもっとチーム引張っていけるよう頑張らなアカンなという気持ちにもなりました。

— 二部門ともタックル関連のプレーに関する賞ですが、玲一のタックルに対するこだわりはなんですか？

こだわりは特にありません。タックルは気持ちですね。笑

フラン HCが試合前に良く言う Killer Instinct(殺人本能)です。言葉は悪いですけど試合に勝つ為には相手に痛いと思わせる気持ちはコン

タクトスポーツであるラグビーでは一番大事だと思います。

セカンドエフォートではまずすぐ立ってプレーする事ラックを乗り越えられるのか、ジャッカルするののか、次のデイフェンスにセットするのかを速く判断して動くようにしています。

— 去年は **Most Effective 2nd 3rd Man of The Year** を取っていたし、仕事量と言えば玲一と言えますが、普段のトレーニングでどんな所にフォーカスしたら仕事量が増えますか？ ただ頑張るってだけでは説明できない仕事量だと思いますが？

ポジション的に7番はチームで一番の仕事をしないと試合に出れないポジションですし、チームの中でもバックローは一番層が厚いポジションなのでトレーニングでは同じポジションの選手よりハードワークすることを心掛けています。

ただハードワークといってもただガムシヤラにやるだけではなくて状況に応じて判断してプレーすることが大事です。例えば練習中や試合中

で「ここはサポートいけたな」とか
「ここはカバーDF入れて止めた
な」とかプレー中にふと思うこと
つてあるじゃないですか？

そう思ったときはすぐに映像を観て
確認するようにしています。逆に

「このラックは頭突っ込まない方
が良かったな」とか、ムダなプレー
も見つけて仕事量だけではなくプレ
ーの質も上げられるよう練習に取り
組んでいます。

—今シーズン自分が意識して取り組
んできた事と、成長したことを教え
て下さい。

昨シーズンは肉離れで離脱する事
が多かったので肉離れはしないよう
にオフシーズンから自分の弱い部分
をトレーニングして準備できたこと
は良かったと思います。最後は膝を
怪我してしまいましたが、シーズン
通して試合に出れたことは経験の少
なかったオープンサイドフランカー
としての視野も広がりましたし少
しは成長できたかなと思います。

ただ上位のパナソニックにはポー
コック(ワールドクラスのオープン

サイドフランカー)がいますしそう
いったレベルの選手がいるチームに
勝つためにはまだまだボールキャリ
ーであったりブレイクダウンワーク
の質を上げることが個人の課題でも
あります。

—シーズンが終わって感じる今年の
課題と来年へ向けた展望を教えてください。

やっぱり毎試合コンスタントにパ
フォーマンスを出すことですね。チ
ームとしては昨シーズンよりすごく
良くなっていると感じていますが、
まだまだ試合によってムラがありま
す。毎年のことですが勝ちきる力を
つければトップ6に行けるチャン
スはたくさんあります。

試合の入りからタフに戦って、敵
陣22mまでいったら必ずスコアす
ることや規律を守ってもっとペナル
ティを減らす。そういったことが試
合を勝ちきるために今のチームに必
要なことだと思います。

その為には自分も含めてですが今
以上にトレーニングからハードにプ
レーすること、例えばフィットネス
の切り返しでラインをしっかりと超え

ることとか、細かい事なんです、
試合のしんどい場面でのプレーに出
てくると思うので、そういう部分も
含めて、もっと自分に厳しくなるこ
とが今のチームにとって大事なこ
事だと思います。

—最後に、ファンの皆さんへのメッ
セージと、来年への意気込みお願
いします。

今シーズンもクボタスピアーズを
応援して頂きありがとうございます
。怪我をしたときは試合会場で声
をかけて頂きとても励みになりまし
た。来シーズンは皆さんに励みにな
るプレーができるよう一戦一戦タフ
に戦う準備をしていきますので引き
続き応援の程宜しくお願いします！



SPECIAL INTERVIEW II



Most Effective 2nd 3rd Man of The Year

FL
末永 健雄
TAKEO SUENAGA

—【Most Effective 2nd 3rd Man of The Year】の受賞おめでとうございます。受賞した感想をお願いします。ありがとうございます。3列、特にオープンサイドフランカー（7番）としては譲れないところであるので、非常にうれしく思います。

—Most Effective 2nd 3rd Man は、ボールを持った人に対して、2番手、3番手のサポートを最も行ったという事で選出されていますが、サポートについてはどんな所を意識していますか？

7番はチームのシステムに沿うと必然的にラックに入る回数が多くなるので、サポートに関して意識するというよりは、システムを守ることが意識しています。基本は決め事である人が足りてなければ加わるといったようなことです。

—全試合出場して、特に後半戦は第11節以降フル出場で大活躍でしたが、今年1年間で自分自身一番成長できた事とその理由を教えてください。

スタートで出だしたのは怪我人あつてのことだったので、メンバー全員がフルな状態でもスタートで出られるようになります。成長できたところは、メンタル面だと思います。学生時代は、相手に強い外国人選手や有名な選手がいたら怖気づいていた部分がありました。しかし、トップリーグでは強い選手しかいませんし、外国人選手も当たり前のようになっています。その中で、むしろ有名な選手を倒して一攫千金のような心構えでプレーすることで良い精神状態で試合に臨めるようになりました。

—特に試合前にこいつ狙ってやろうと思ったり、試合後に印象に残った選手をそれぞれ教えてください。試合の週の1on1ミーティングでDFコーチのジョンとメインターゲットを確認しているので、その相手は特に意識しています。

例えば、リーチ・マイケル選手やアマナキ・レイ・マフィ選手などです。

その中でも特にヤマハ発動機ジュビロのヘル・ウヴェ選手はとてもパ

ワフルな選手で、なんども前に出られたので印象に残っています。

—今年も新人が素晴らしい活躍で、全員TLに出場しましたが、同期への思いを一言お願いします。

アイシテル。

—11月号のインタビューで「まだ自信をもってボールを呼び込めていなくて、アタックをする機会があまりないので、そこが課題だと思っています。」と話していましたが、後半戦はその部分はどうでしたか？

前半節に比べ多少はボールに触る機会も増えたとは思いますが、それは出場時間が増えたことが大きく、まだまだ得意なプレーは「ラン」といえる程貢献できていないので、来シーズンに向けてしっかりトレーニングしていきたいと思っています。

—来年、自分自身が成長したい事と、積極的に取り組みたい事を教えて下さい。

成長したい事は、「フィジカル面でもメンタル面でも余裕を持つ」とい

うことです。

フィジカルに関しては、今の段階では、一つ一つのプレーに余裕がなくMAXで臨むため、試合終盤になるとぼててプレーの質が落ちているように感じます。オフからスタミナ強化を含めもう一度身体作りをしていきたいと思っています。その為に、現在取り組んでいるのは、三度の食事と別に午前、午後、夜に補食を摂っています。

一方メンタル面では、今シーズンは余裕がなく、ミスをしたような堅いプレーを意識しすぎたあまり、少し消極的なプレーをしてしまうことがありました。そこで余裕を持つことで状況判断をしやすくし、プレーの幅を広げていきたいと考えています。その為には、試合に連続経験を積むことが大事だと思うので、プレシーズンからフルな状態でプレーできるように、今からしっかり準備していきたいと思っています。

—また、将来の夢はスピアーズのトップリーグ優勝と伺いましたが、今年は11位でした。来年以降優勝す



る為に今後どう改善していくかを教えて下さい。

自分の中では、何か特別なことをしたからいきなり優勝できるということではないと思いますし、自分自身日本一はU17九州選抜でしかなかったことなので、なり方とかはわからないのですが、チーム全員が同じ方を向いているということは大切だと思います。試合に出る、メンバー、スタッフ関係なく同じ目標に対して一つになりやっていく中で出た課題を解決していくことで、少しずつ進んでいけるのだと思います

—最後に、ファンの皆さんへのメッセージと、来年への意気込みをお願いします。

シーズン通してたくさんの声援をありがとうございました。また、ゼヒグラウンドに足を運んでいただき声をかけてください！人見知りですが・・・

ひとつやふたつと言わず、いっぱい上目指して頑張るので応援よろしくお願いします。

SPECIAL INTERVIEWⅢ



Players Player of The Year

SO/CTB
立川 理道

HARUMICHI TATEKAWA

—表彰式でも言っていましたが入団以降6年連続で何らかの賞を獲得していますが、今回受賞しました

【Players Player of the year】は初めてですね。受賞の感想をお願いします。

Players Player of the year とい

う初めての賞を選手から選んでもらい、受賞出来て本当に光栄です。

連続受賞を続けていきたいと思えます！笑

—入団6年目、またフラン体制になって2年目となりますが、今シーズン自身自身が意識して取り組んだこと、その中で成長出来たなと思うことを教えてください。

今シーズンは、イメージした身体の使い方を実際に動かす事が出来るようにしたいと思っていたので、その為に、色々なトレーニングを取り入れました。

まだまだ成長段階ですが、その点は少しずつ良くなってきていると思います。

—今年最も印象に残っている試合と、最も印象に残っている自分のプ

レーを、是非理由と共に教えてください。

印象に残っている試合は、11節の東芝戦です。勝てる点差に迫った時間帯、大事な時間帯でミスをして勝つチャンスを逃してしまったからです。あの試合は今シーズンの中で一番悔しかったです。

印象に残っているプレーは、7節の近鉄戦の天理卒の3人でトライを取ったプレーです。ひとつ前の質問で言った様に、イメージ通りに身体を動かして、それによって相手を抜く事が出来たからです。

その後は、地元天理で同期3人でパスを繋ぎスコア出来た事もあり、印象に残っています。



―SR(サンウルブズ)、日本代表、トップリーグと1年中ずつとラグビーしています。コンディションを整える上で最も気を使っている事は何ですか?トレーニングや、リラクセス法、食事の摂り方など意識していることはありますか?

1年間ずつとラグビーをしているのは6年目になるので、もう慣れましたね。笑

その中でも近年で1番気を付けているのは、食事・睡眠です。

食事はバランスのいい食事、食べる時間帯を考えるようになりました。

サプリメントなどうまく使う事

で、体に変化を感じるようになりましたね。

睡眠はルーティン化していききました。スリープウェアを使い、好きな音楽を聴いて、リラクセスして寝る事が出来るようにしました。

―シーズン終わっての課題と、来年どうやって勝つか展望をお願いします。

今シーズンはシーズン通して浮き沈みのある試合が多かったので、何が原因なのかをしっかりと見つめ直していきたいと思います。

来シーズンは、フラン体制3年目です。ATDF共に成長させて、クボタらしい試合をしていきたいと思っています。

また、浮き沈みの少ない一貫性のあるパフォーマンスを出せるようにチームをリードしていきたいと思っています。

―最後に、ファンの皆さんへのメッセージと、来年への意気込みをお願いします。

今シーズンも応援ありがとうございました。ファンの皆様にはいつも力を頂いています。本当に感謝しています。

来シーズンは、皆様と喜びを分かち合える様に全力で頑張りたいと思います。引き続き応援よろしくお願いします!

